

## 福井県立三方青年の家(1/2)

# 三方青年の家は縄文体験のできる宿泊研修施設です

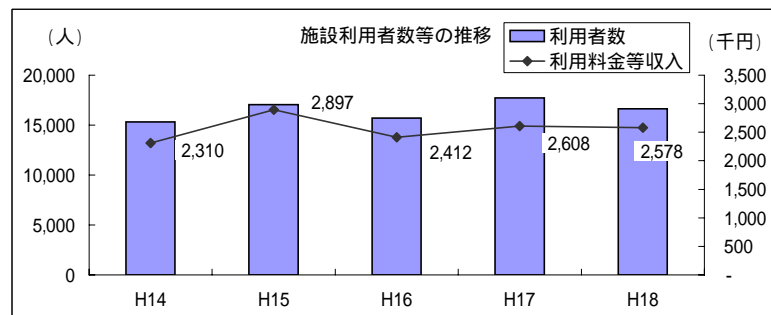
所在地	三方上中郡若狭町鳥浜122-27-1		
設置年月日	昭和38年5月1日(平成14年4月17日改築)		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階他、延3,583.77㎡ 宿泊室(120名)、研修室(90名)、多目的ホール(500名)、キャンプ場		
職員数	職員5人		

### 利用状況等

	H14	H15	H16	H17	H18
利用者数(人)	15,323	17,056	15,709	17,719	16,629
利用率(%)	23.6	25.5	23.9	27.1	25.5

### 利用者負担(利用料金)等

施設使用料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円



利用状況の推移	近年の利用者数は、平成17年度の約18,000人をピークにほぼ横ばいで推移しています。平成18年度は、利用者の少ない12月～3月については例年と比べて増加しましたが、年間では前年度と比べて約6%の減少となりました。
---------	---

### 施設の特徴

#### 嶺南地域における公共の青少年宿泊施設3施設のうちの一つ

嶺南地域には、公共の青少年の宿泊施設は3施設(若狭湾少年自然の家、敦賀市少年自然の家、三方青年の家)があり、低料金で利用できるため、小・中学校の宿泊体験施設やスポーツ少年団、子供会などの活動の場として幅広く利用され、児童生徒の体験活動を促進しています。

また、高校の部活動の強化合宿や生徒会のリーダー研修会などでも年間を通じて利用されています。

#### 利用に配慮した施設

創作活動・実験・自然観察など学習活動が容易に行えるよう研修室を1階に配置し、野外施設との連携がとりやすいよう直接外出もできる構造としています。

体育館に多目的ホール機能を付加し、講演会やシンポジウム等の開催ができます。

#### 主催事業の開催

次代を担う青少年の「生きる力」を育むため各種教育関係団体と連携して各種事業を開催しています。

めざせ！そば打ち名人



オリジナルリースづくり



### 平成18年度の特徴について

事業実績	<p>近隣の5施設(国立若狭湾少年自然の家、県海浜自然センター、若狭町立縄文博物館、県歴史民俗資料館)と連携して、地域の自然や歴史に関する体験学習事業を実施しました。【延参加者数:25名】</p> <p>体験とふれあいを通して思いやりや自主性、協調性、忍耐力などを養う長期宿泊体験事業を6泊7日の日程で実施しました。【延参加者数:40名】</p> <p>そば打ちを通して、日本の伝統的な食文化について理解を深める「めざせ！そば打ち名人」、近くの野山で採取した自然の素材を活用したリースを作ることによる創作の楽しみを味わう「オリジナルリースづくり」など主催事業で24事業1,612名の参加があり、有意義な事業を展開することができました。</p>
------	---

# 福井県立三方青年の家(2/2)

## 行政コスト計算書(平成18年度) (単位:千円)

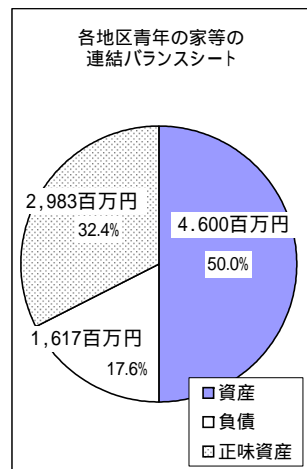
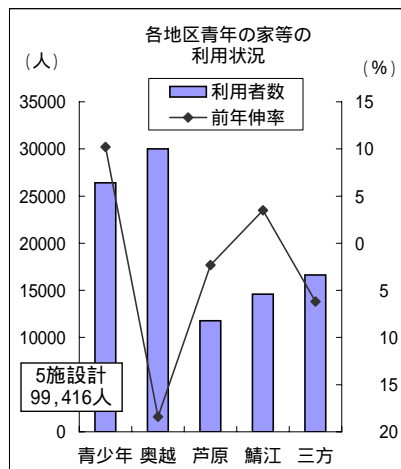
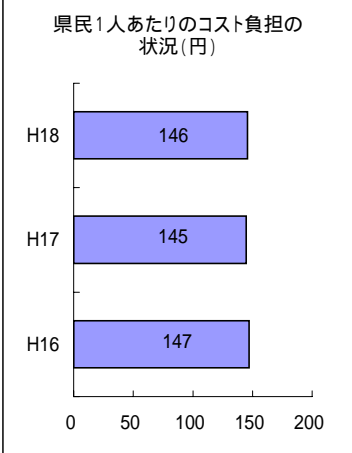
		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	49,785	40.7%	103.1%
	退職給与引当金繰入	325	0.3%	216.7%
	計	50,110	41.0%	103.4%
物にかかるコスト	物件費	20,372	16.7%	101.8%
	維持補修費	539	0.4%	81.5%
	減価償却費	32,723	26.8%	100.0%
	計	53,634	43.9%	100.4%
その他	公債費(利子)	18,404	15.1%	93.7%
	その他	5	0.0%	7.7%
	計	18,409	15.1%	93.4%
合計		122,153	100.0%	100.5%
収入	利用料等収入	2,578	2.1%	98.8%
	その他収入	184	0.2%	94.8%
	一般財源	119,391	97.7%	100.5%

## バランスシート(平成19年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	1,507,063	97.9%	固定負債	1,200,280	93.2%
うち建物	1,503,094	97.9%	うち起債残高	1,160,505	92.9%
			うち退職手当引当金	39,775	100.8%
投資等	0	-	流動負債	88,068	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	218,715	133.6%
計	1,507,063	97.9%	計	1,507,063	97.9%

## 主な指標 (単位:%、円/人)

	H18	H17	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,841	1,875	98.2%
県民1人あたり将来負担額	1,467	1,569	93.5%
世代間負担率	14.5	10.6	136.8%



バランスシート、行政コスト計算書の特色	<p>行政コストは、前年度比0.5%の増加と、前年度とほぼ同額になっています。</p> <p>資産は建物がほぼ100%を占め、減価償却分だけ前年度から資産が減少しています。</p> <p>平成14年度に施設の新築移転を行っており、この際に約14億円の借入れを行いました。18年度末残高が1,248百万円あり、公債費の負担が大きくなっています。</p> <p>他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。</p>
施設の目的上、管理運営上、主要な事業	<p>施設の維持管理や主催事業等の実施 (主催事業は職員の日常業務として実施) [H19予算額:約25百万円]</p>
今後の課題	<p>利用者数は5年間で1割増加していますが、利用率は25%にとどまっており、利用拡大を図っていく必要があります。</p> <p>三方五湖を活用したポート競技者やカヌー競技者等の利用が大部分を占めているため、一般の方向けの事業展開等が不足しています。</p> <p>そこで、積極的に施設のPR等を実施し、大学サークル団体や新規の地域活動団体等の利用を増やす必要があるほか、ボランティアの育成・確保による主催事業の充実等も必要です。</p> <p>さらに、近隣施設との連携や職員の資質を向上させ、事業内容を充実していかなければなりません。</p>
今後の事業方針 取り組み内容	<p>以下の取組みにより、利用者増を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖畔に立地している点、緑に囲まれている点、縄文博物館が隣接している点等を活かした各種体験事業、研修等に取組みます。</li> <li>・主催事業の企画実施にあたって各種教育関係者、地域との連携を図ります。</li> <li>・ホームページ等による広報に努めます。</li> </ul>